

軍事極秘

自昭和十九年七月一日
至昭和十九年七月三十一日

陣中日誌

獨立混成第十五聯隊第三大隊本部

陣中日誌ノ例式

第一 陣中日誌ハ左ノ諸部團隊ニ於テ作ルヘキモノトス

大本營ノ各部(郵便部ヲ除ク)(高等司令部)(編制上各部ニ區分スルモノハ其各部毎ニ但郵便部ヲ除ク)兵站監部ノ各部、兵站司令部、聯隊、大隊、獨立中隊、砲兵聯隊、設列、堡壘團、獨立堡壘、獨立砲臺、電信隊、衛生隊、病院、縱列監視隊、兵器廠、豫備員、豫備廠、患者輸送部、馬廠

留守司令部及補充諸部隊ニ在テハ右ノ區分ニ應シ留守日誌ヲ作り首トシテ第三項乙ニ掲クル項目ニ準シ記載スヘシ

第二 陣中日誌及留守日誌ハ諸隊團隊勳員令受領ノ白ヨリ記載スヘキモノトス

特別部隊等ニ在テハ先ツ到着セシ將校又ハ同相當官之カ記載ヲ始メ後ニ之ヲ主任者ニ移スモノトス

第三 之ヲ作ルノ目的ハ左ノ二項ニ在リ

甲、各人若クハ諸部團隊ノ經歷若クハ遭遇シタル事實況ヲ記載シ
一ニハ戰史ノ用ニ資シ一ニハ各人ノ勤勞ヲ他日銓衡スルノ參
考ニ供ス

乙、編制教育補充給養衛生武器彈藥器具材料被服裝具
等凡テ軍事ニ關スル事物ノ經驗ヲ錄シ將來改良ノ材料ト爲ス

第四

甲ノ目的ヲ達センハ左ノ諸件ニ注意シテ記載スヘシ

一、命令、訓令、通報(機密作戰目録ニ載セタルモハ軍簡要領ノミヲ
摘載シ其詳細ハ該作戰目録ニ付記スヘシ)

二、毎日ノ位置(某地ヲ去テ某
地ニ留ル等)

三、行軍、宿營ニ關スル事項

四、戰鬥ノ景況(戰鬥ノ顛末ヲ記載スヘキモノニシテ隣接部隊ト關係及緊要
ノ時機ニ於ケル部隊位置、略圖ハ殊ニ明確ナラシムルヲ要ス)

五、戰鬥間ニ生シタル事件

以上ノ事ヲ記スルニ方リ時刻ヲ詳記スルコトヲ忘ル可ラス又以上ノ事ニ
關シ自己ノ部隊ニ影響セシ事項(天候、地形ノ險易、道路ノ良否、人
家ノ多寡等ノ類)ハ簡短ニ附記セザル可ラス

六、所屬セシ軍隊ノ區分(當大隊ハ前兵アリ或ハ
本隊ノ先頭ニ在リ等)

七、人員ノ異動

轉任、死傷等將校ハ官氏名ヲ錄シ下士卒卒及馬匹ハ其數ヲ錄ス

八、休戰中ノ宿營

九、野戰作業等ノ施設

十、此他凡ソ其一日間ニ生セシ緊要ノ事項

第五

乙ノ目的ヲ達センハ左ノ諸件ニ注意シテ記載スヘシ

一、武器彈藥器具、材料、被服、裝具等ニ關スルコト

二、編制及諸規令ノ作戰上ニ及ホシタル影響等

三、補充給養及衛生上ニ關スルコト

四、教育及軍紀ニ關スルコト

五、非常ノ時機ニ際シテ爲シタル非常ノ處置例ハ敵地ニ在テ

住民ニ多額ノ罰金ヲ課シタル等

第六

高等司令部、諸部隊、諸官廳ヲ到達セル命令、訓令、通報及之

ニ送呈セル報告、詳報其他死傷表武器彈藥損耗表或ハ前哨等ヨリ至レル報告等ハ凡テ其要領ヲ摘ミ記事ノ後ニ概書シテ参照ニ備フヘシ但各原本ハ種類毎ニ一括シテ保存スヘシ
 祕密ニ屬スル特別任務等ニシテ當時之ヲ日誌ニ掲載スル能ハサルモノト雖モ其妨々キニ至テハ成ルヘテ詳細ニ其類末ヲ記載スルモノトス

第七 凡ソ此ノ日誌ハ月日時(順序ヲ遂ヒ)ト地名トヲ明記セザル可ラス而シテ諸部團隊ノ長(或ハ參謀長)之ヲ照檢シ毎日記載ノ結尾ニ捺印或ハ華押スヘシ
 第八 此日誌ハ諸部團隊復員完結ノ日ヲ以テ終局ト爲シ直ニ一本ヲ騰寫シ順序ヲ經テ陸軍省ニ原本ハ其部隊ニ格納スヘシ
 陸軍省ハ此日誌中ヨリ所要ノ事項ヲ抄録シテ之ヲ保存シ他ハ皆參謀本部ニ送り之ヲ陸軍文庫ニ格納スヘシ
 第九 此例式ハ必ス陣中日誌ノ卷首ニ貼付スヘシ

第二大隊本部編成表

大隊長	井上清公	書軍三	蓋原茂信	長	木	中	一	二
大尉	山下寬治	書軍三	藤井光男	長	木	中	一	二
中	関 太郎	書軍三	仲條嘉春	上	木	中	一	二
中	富田良夫	書軍三	岩刺亮一	上	木	中	一	二
少	古賀 明	書軍三	宮崎塔二	上	木	中	一	二
少	野澤 章	書軍三	村井正順	上	木	中	一	二
少	野澤 章	書軍三	若林武夫	上	木	中	一	二
少	野澤 章	書軍三	田中考一	上	木	中	一	二
少	野澤 章	書軍三	中田芳雄	上	木	中	一	二

七月一日 晴

行 動

一、第一回輸送部隊ハ〇一三〇習志野東廠舎ヲ出發
夜行軍ヲ以テ津田沼驛ニ至ル小憩、後乘車

〇四三〇發一路門司ニ向テ

給 養

二、朝食一、中川晝食一、沼津夕食一、濱松ニテ受テ

教 育

三、一〇〇〇ヨリ一時間列車内ニ於テ野崎大尉、對普監視
ニシテ將校教育ヲ受テ

四、第二回輸送部隊ハ依然習志野東廠舎ニ廠營
ニ出發準備ヲナス

宿 營 地

軍用列車内

勤 務

陸軍軍曹 仲條嘉春

入 員

日直下士官 將校以下ニ九名

(井上)

七月二日 晴

行動 一、軍用列車ハ一八三〇異狀ヲ門司港ニ到着ス

列車内、給養左ノ如シ

給養 二、朝食一岡山晝食一廣島 夕食一小郡

宿營地 三、大隊ハ先發者、設營ヨリ門司市新川町附近ニ宿營ス

四、第二回輸送部隊ハ第一回輸送部隊ト同シ行動ニヨリ
乗車門司ニ出發ス

命令 五、井作命第三號

第二大隊命令

七月二日 於門司

一、大隊ハ美作命第一號ニ依リ宿營ス

二、間片少尉ハ部隊日直將校ニ服務スハシ

三、予ハ新川町岡村方ニアリ

大隊長 井上大尉

下達法命令受領者ヲ集メテ口達筆記セシム

追加命令

陸軍

一、明三日〇八三〇ヨリ船舶輸送司令部ニ於テ船舶監視
法、教育ヲ實施スルニ付左ノ通リ心得ハシ

1. 集合場所及日時、大隊長宿舎前 七月二日〇八〇〇

2. 人員差出區分

本部 大隊長

四中隊 將校一、下士官一

五中隊 同 一 同 四

六中隊 同 一 同 四

計 四 九

3. 服裝將校以下單獨軍裝ニテ筆記具携行

スハシ

4. 細部ニ関シテハ輸送司令部中村中尉ノ指示ヲ

受クハシ

二、資材監視、爲明三日一七〇〇迄ニ第五中隊ヨリ

井上

勤務人員	日直下士官 陸軍軍曹 岩 刈 亮 一 將校以下二九名
七月三日 兩層	行 動
<p>下士官一兵八ヲ大隊本部ニ差出シ大隊副官ノ指示ヲ受ケハシ</p> <p>服装ハ單装ニシテ背囊雜囊水筒ヲ除ク</p> <p>三、各中隊ヨリ兵長上等兵ヲ以テ五名ヲ速ニ輸送司令部ニ差出シ船舶監視法ノ教育ヲ受ケシムハシ</p> <p>細部ハ第一項ニヨル</p>	
<p>一大隊長以下三名ハヨリ船舶輸送司令部ニ至リ中村中尉ノ行ヲ船舶監視法ノ學科ヲ受ケ一二三〇終了ス</p> <p>兵八門司港驛ニテ荷物ノ卸下ニ任ズ</p>	

陸軍

命令	井上隊命令
<p>二一三〇頃突如大分縣川南ニ轉送スルヲ承知シ直ニ準備ノ命令ヲ與ハ出發準備ヲス</p> <p>命令三、井上隊命令第四號</p>	
<p>一、聯隊主力ハ本夜門司出發大分縣川南ニ轉送ス</p> <p>二、第二大隊主力ハ第二次輸送部隊トシテ後方部隊ヲ合シ本夜〇二五〇門司驛發川南ニ向ヒ前進セントス</p> <p>三、之ガ爲各隊ハ第四項ニホス人員ヲ殘置シ午後〇二〇〇迄門司驛第二號岸燈ホームニ集合シ人員搭載掛ノ指示ニ依リ搭乗スハシ</p> <p>四、殘置人員 第二大隊本部 関中尉 菅野中尉 各本部各隊 下士官 一、二、三、</p>	
<p>MG 六七</p>	

関中尉指揮シ御子神中尉ノ指揮ニ入ル
 ヲ整理シタル被船船ニ依リ主力ニ進勇スヘシ
 五、後饋部隊ハ門司驛ニ下車右ホームニ於テ大休止
 ラシタル後、大隊長ノ指揮ニ入ルハシ
 六、予ハ二回。迄現在地、四日。一。〇。〇。以後門司驛第
 二號岸壁ホームニ在リ
 大隊長 井上 大尉
 下達法 命令受領者ヲ集メ口達筆記後、部隊
 隊ニ副官ヲシテ筆記セルモノヲ交付ス
 四、第二次輸送部隊ハ八。〇。門司港ニ到着シ二。〇。〇
 大隊長ノ指揮ニ入ル出發迄各隊ハ附近ニ於テ
 大休止ヲ實施ス
 門司
 日直下士官 陸軍軍曹 若淵亮一

人員 將校以下二九名
 行 動 一、大隊八。〇。〇。迄二門司港岸壁ホームニ集合シ三。〇。〇。列軍
 二、塔乘シ二。五。後川南高前迄ス 中將命令川南
 大分縣ヲナク官邸跡九三ヲ判明ス
 二、森岡中尉大門口射撃面若シ門司港迄再門司港
 三、川南迄部隊ヲ指揮シ塔乗シ大分縣塔乗
 門司着以來一休一駐セシ塔乗業務ノ完遂ニ責務
 ヲ完ハセリ
 給 養 三、朝食一、行橋 晝食一、在宿
 四、〇九。〇。大分驛ニ警務署警報發令シ
 五、部隊到着場所ハ川南上ノ三。先三。朝代三。列
 車中ヲ明瞭ニ代着一五。三。〇。

命 令六 井上命第五號

井上隊命令

七月四日

一、大隊の本夜、即隊命令、示所「故」上富田村ニ
着營セシトス

二、各隊ハ准尉、指揮スル設營者ヲ差出シ、則官ノ監督
スル所ニ於テ夫々着營スヘシ

三、本日ノ大隊日直將校ハ、所介合少尉トシテ
四、配着完了トシ、本部各隊ノ直ニ配着、備ヲ差出
ス

五、警急集合場ハ、大隊本部前ニ支路トス
六、空襲ニ際シテハ各隊夫々着營地附近ニ於テ地
形地物ヲ利用シ、極力疎開スヘシ

七、二〇〇命令受領者ヲ予、許ニ差出スヘシ
八、予ハ一八〇以降富田村ハ橋檢本方ニ在リ

陸軍

七、井上命第六號

大隊長

井上大尉

下達表 命令受領者ヲ集メ、口達筆記シテ

井上隊命令

七月四日

一、着營間大隊日直將校、本如ク報告スヘシ
五日 長越 少尉

六日 今本 少尉

七日 原田 少尉

日直ノ交代ハ正午トシ交代場所ハ大隊本部
ニ、パスト第一回豫防接種ヲ左記ニテ實施ス

日時 六日 〇九〇〇
場所 本部前

順序 本部 5、8、4、ME
大隊長 井上大尉

井上

着營地
勤務
人員
將校等二十六名

宮崎縣兒湯郡富田村
日直下士官
陸軍軍曹
宮崎塔二

七月五日 晴

行動

一、飛行機ニ搭載荷物制取ヲ受テ部隊門可輸送荷物
列車ニ搭載此ニ飛行機輸送荷物飛行場運搬ヲ
ナス

衛生

生二〇九〇〇ヨリハ下豫防接種第一回ヲ實施ス
三一六〇〇輸送二回ニ打合セ為大隊長副官新百原
行場ニ至リ連絡ヲナシ一七三〇歸隊ス
二〇〇再度打合セ為大隊長副官飛行場ニ至リ
二三三〇歸隊ス

陸軍

命令

命令四、井上隊命令
於七月五日二四〇〇
於富田村

一大隊ハ獨混一五作命令第三號ニ基テ轉進命令ニ依リ
明日ヨリ別紙計畫表ニ基テ逐次兵力ヲ移動シ空
輸ニヨリ部隊ニ集結セシムル

二、各隊ハ計畫表ニヨリ區分セル塔載人員ヲ新田原
飛行場ニ出發セシムル

三、大隊ノ衛兵差出ハ引續キ第四中隊擔任トス
大隊衛兵ハ第二大隊本部出發右ニ〇〇撤收ス

四、飛行場衛兵差出左ノ如シ

- 第六日 第六中隊
- 第七日 第四中隊
- 第八日 第六中隊

五、部隊日直將校ハ出發日迄長嶽少尉服務ス

六、予ハ七月七日ニ。進富田村ニ爾後飛行機ニ

大隊長 井上火尉

下達法各隊長命令受領者ヲ集メ口達筆記

官崎縣兒湯郡富田村

舎主

日直下士官

陸軍軍曹

岩刈亮一

將校以下ニ六名

七月六日
曇小雨
行 動

一本軍朝日大隊一部空輸ヲ開始ス爾余ハ聯送前ニ

陸軍

諸準備ヲナス

官崎縣兒湯郡 富田村

舎主

日直下士官

陸軍軍曹

藤井光男

將校以下ニ六名

宿營地
給 養
勤 務
入 員

七月七日
曇小雨
行 動

一大隊本部ハ一〇〇。宿營地出發自動貨車ニテ新田

原飛行場ニ至ル一二〇。飛行場ヲ出發那霸ニ向フ

二、仲條軍曹及中田兵長ヲ後發トシテ富田村ニ殘置

セシム

三、一五〇。全員無事沖繩縣那霸北飛行場ニ到着ス

折柄驟雨後ノ為濕氣多ク直射日光ニ照サレ先ツ

沖繩ノ暑ヲ一驚ス

宿營地

自動貨車ニテ嘉手納縣立農林學校ニ至リ宿營ス

命令 四井作命第八號

井上隊命令

七月八日 嘉手納

一大隊ハ獨混一五作命第五號ニ基キ本日ヨリ嘉手納農林學校ニ宿營セシトス

二各隊ハ現地ニ於テ副官ノ區署ニヨリ夫々宿營スヘシ

三、日直將校ハMG中野少尉トス

四、第五中隊ヨリ神谷少尉ノ指揮スルケ小隊ヲ對空射擊部隊トシテ服務セシムヘシ

五、MGハ必要ニ應ジ對空射擊ヲナシ得ル如ク準備スヘシ

六、警急集合場ハ宿營地裏ノ運動場トス

七、空襲ニ際シテハ運動場東方地區ニ極力疎開スヘシ

陸軍

八、給養ハ明八日朝食ヨリ聯隊炊事トス

九、予ハ嘉手納農林學校ニアリ

大隊長 井上大尉

下達法令受領者ヲ集メ口達筆記セシム

夕食ハ宮崎縣富田村ヨリ携行セシモノヲ食ス

日直下士官 陸軍軍曹 宮崎啓三

將校以下二六名

嘉手納

七月八日

警報

一、〇、六、空襲警報發令ナレ大隊八道子ニ井作命第八號配置ニツク

二、岩別軍曹以下二〇名一二〇〇一六〇〇單記教練ヲ實施ス

行

三、大隊長ハ隊長ノ任務概要ヲ示シ大隊長ヲ破全

(井上)

員ト共ニ北飛行場周邊防禦爲地形偵察ヲテ
 一三〇〇出發一六三〇歸隊ス

四仲條軍曹以下二名後發トシテ一五〇〇到着ス
 命 命 井上隊命令 井上隊命令

一左、通リ日直ニ服務スヘシ

八日 原田少尉
 九日 今本少尉
 十日 間片少尉

勤務 交代一三〇〇トス

宿營地 嘉手納
 日直下士官 陸軍軍曹 宿野啓
 勤務員 將校以下二六名

東京・奥谷

(井上)

七月九日 晴

行 動 一大隊長〇〇。勤務員宿營地地形偵察ニ出發ス。勤
 隊 隊員一〇名ヲ率ヘテ嘉手納飛行場ニ出向ク。日直下士官

教 育 二仲條軍曹以下五名ヲ率ヘテ嘉手納飛行場ニ出向ク。嘉
 命 命 三井上命令ヲ奉ル。一六三〇

宿營地 嘉手納飛行場
 勤務員 日直下士官 陸軍軍曹 宿野啓
 將校以下二六名

七月十日 晴

行 動 一大隊長〇〇。出發後偵察隊附近地形偵察ニ出向ク。勤
 隊 隊員一〇名ヲ率ヘテ嘉手納飛行場ニ出向ク。日直下士官

陸軍

一六〇 歸隊ス

教

會ニ岩淵軍曹以下二十五名ヲ以テ北嶺邊ニ遊撃隊ヲ編成ス

ヲ實施ス

命

令三井作命第九號

陸軍大臣ヲ陸上隊命令

七月十日二〇〇〇
於嘉手納

一津池縣防衛團團長小泉清ハ岩淵ニ遊撃隊ヲ編成ス

聯隊並ニ上下二分隊ハ中頭地區隊トナリ北伊計半島

北端ノ城原ノ熱田原線以南ノ南六洋臺島北嶺嶺

南端ノ空母灣南嶺地區ヲ防衛ス

第三大隊協力を以テ聯隊砲速射砲並ニ兵ニ関シテハ

獨混五隊並ニ第六號ノ如シ

三第中隊(防銃)ハ西守備隊トナリ北嶺嶺邊ニ遊撃隊

ヲ以テ上陸侵入スル敵ニ對シテ喜喜味喜名伊良皆附

道ニ堅固ニ陣地ヲ構築スルヲ以テ岩淵軍曹トシテ

陸軍

容易ナリシトス

三第中隊ハ伊良皆附近四周ニ對シ堅固ナル陣地ヲ構築

スルニハシ

四第五中隊(小隊)ハ喜喜後方ノ高地附近四周ニ對

シ堅固ナル陣地ヲ構築スルニハシ

五第六中隊(小隊)ハ喜喜味北嶺嶺邊地區四周ニ對シ

堅固ナル陣地ヲ構築スルニハシ

六第五中隊神谷小隊ハ南守備隊トナリ聯隊本部

ノ指示ヲ受ケルニハシ

七森岡中隊ハ指揮ヲ以テ各隊ハ渡慶次附近ニアリテ

警備ヲ任セラルニハシ

八機関銃中隊ハ取敢テ各據點内ニ矢々ニ陣地ヲ

堅固ニ構築スルニハシ

細部ニ關シテハ現地ニ於テ指示ス

九、大隊陣地ノ編成設備 陣地構築計畫表

一、大隊主力分隊 一、七、〇。現着營地ヲ撤シ喜名國民學校ニ移駐ス

二、第着中隊ハ渡平公會堂ニ位置スハシ 給養ニ関シ

三、中隊長長之連絡ヲ入ル

三、着中隊ハ渡平公會堂ニ位置スハシ 給養ニ関シ

嘉年紛

日直下士官

將校以下二六名

東京。奥谷

井上

勤務員

着營地

別紙

西地區守備隊主陣地構築計畫

方針

大隊ハ即時即應シ得ル如ク自隊陣地ハ自隊ニ先ツ野戰陣地ヲ構築シ七月二日開始九月三日迄ニ概成シ爾後遂次補強ス工事ノ進捗ニ伴ヒ訓練ヲ併行ス

實施要領

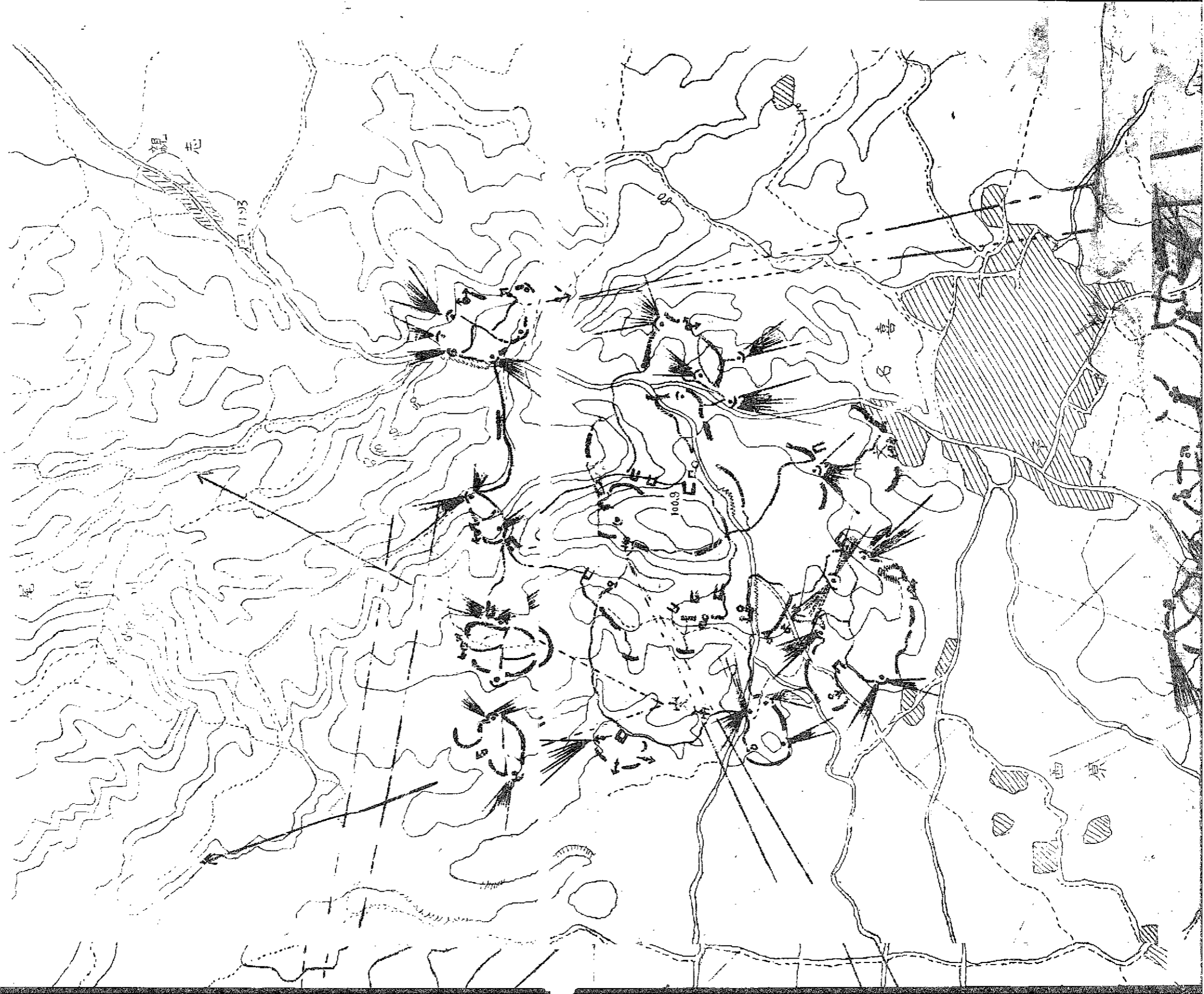
- 一、先ヅ人員用洞窟ヲ構築シ次テ即應シ得ル如ク野戰陣地ヲ構築爾後遂次補強ス
- 二、主陣地ノ構築ヲ第一着手シ偽陣地前進陣地海岸陣地ノ順ニ構築ス 主陣地以外ハ成シ得ル限り土民ヲ利用ス
- 三、工兵ハ主トシテ重要ナル洞窟ヲ 勞務者ハ交通壕ヲ構築ス

- 四、大隊陣地ノ編成配備附圖第一圖ノ如シ
- 五、大隊陣地構築基準附表第一ノ如シ
- 六、資材ノ配當附表第二ノ如シ
- 七、企圖秘匿ニ對シテハ偽裝ニ注意シ飛行隊ト連絡情報ノ收集ニシトメ敵機來襲ニ際シテハ晝間ノ工事ヲ中止ス
- 八、狀況急ナラザル場合AAノ對空監視哨飛行隊ノ對空警戒ト密ニ連絡シ全力ヲ作業ノ促進ヲ圖リ狀況ノ變化ニ應ジテハ特設警戒備中隊ヲシテ海岸監視部隊ヲ配置セシメ101高地ニ對空監視哨ヲ出シ警戒ス

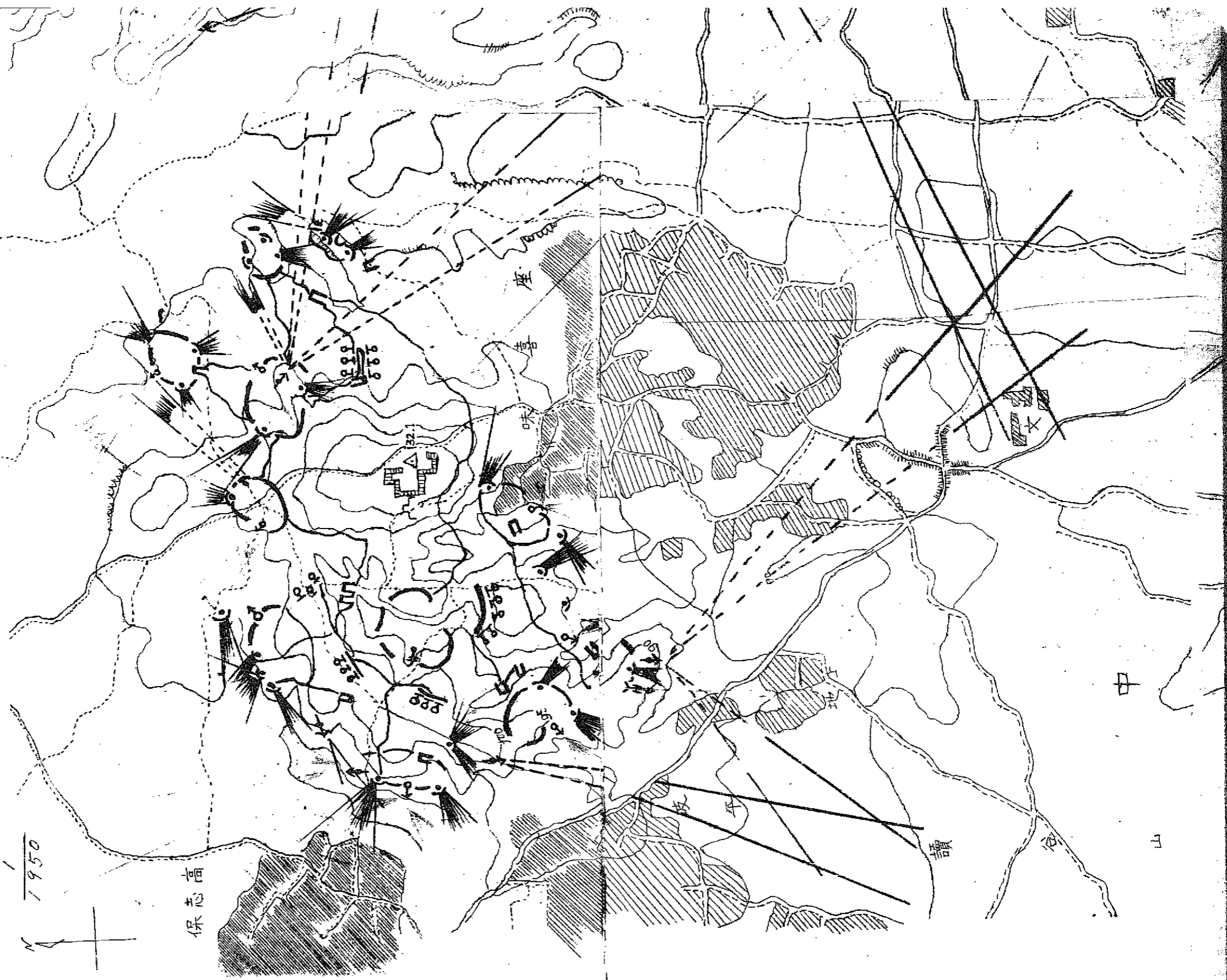
備考

本計畫、第一次計畫(掩蓋)ニ野戰陣地人員用洞窟重要ナル所ノ障礙物ヲ構築ス)トシ時間アレバ第二次第三次ノ計畫ヲナシ陣地ヲ強化ス

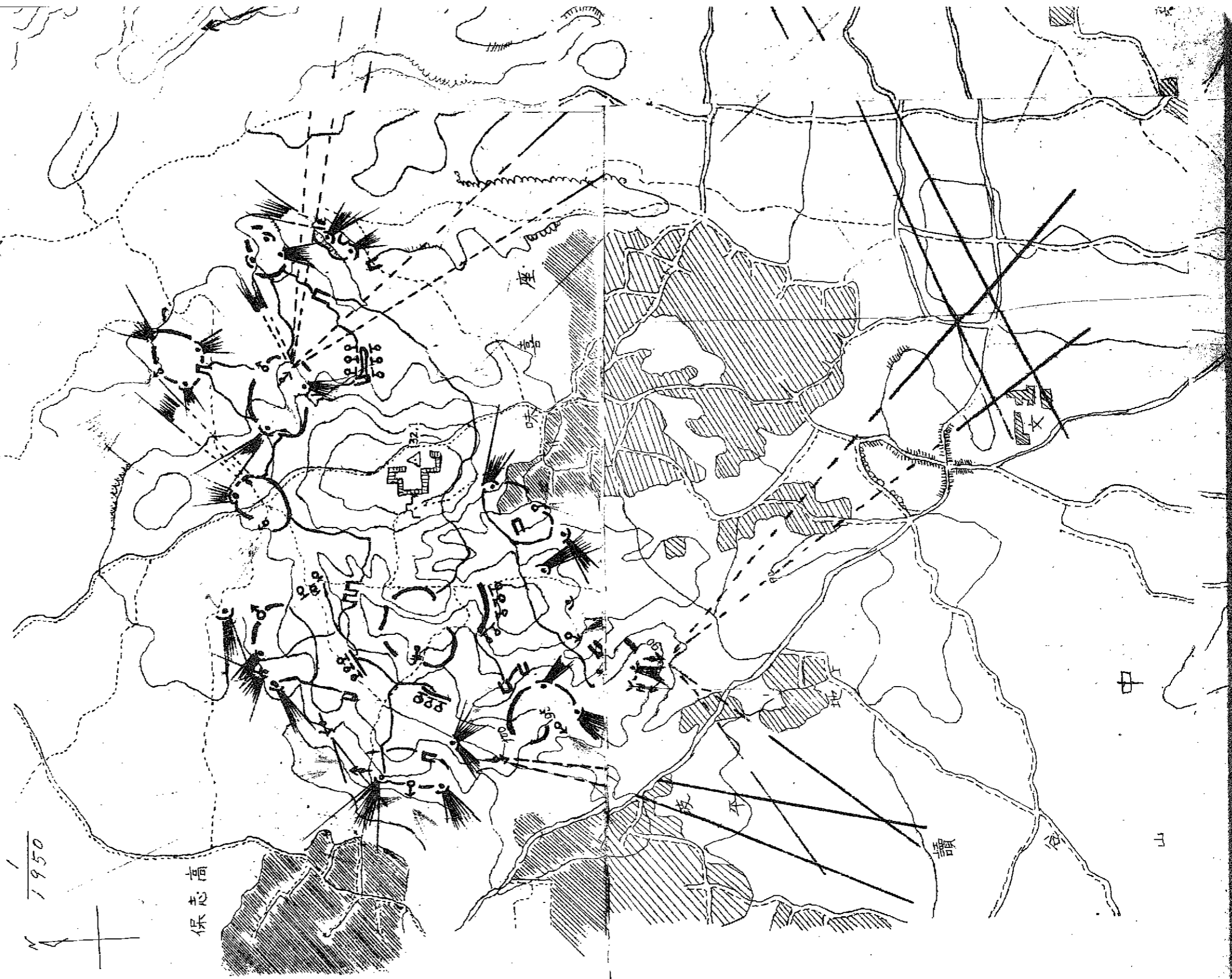
西地區守備主陸地

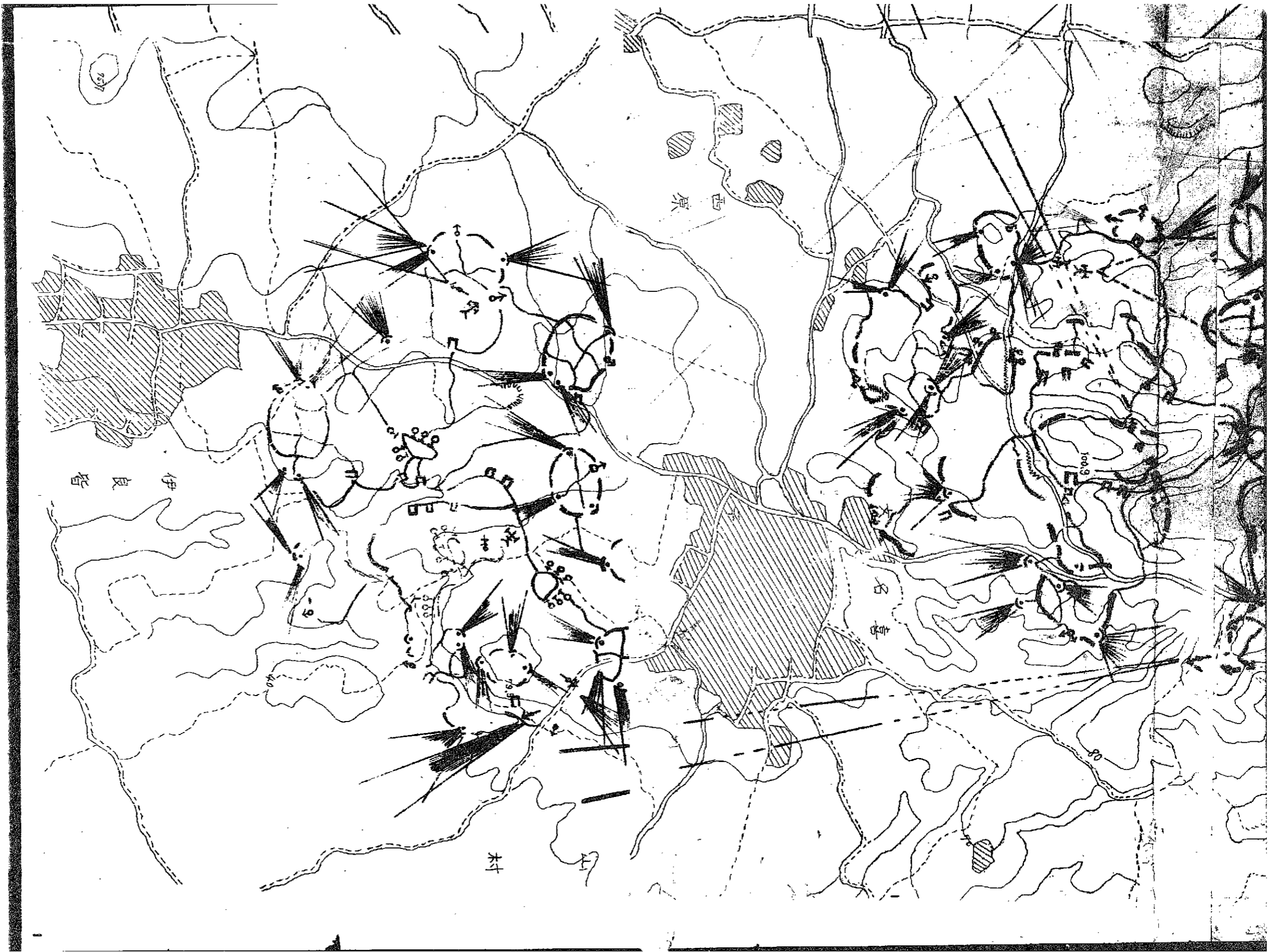


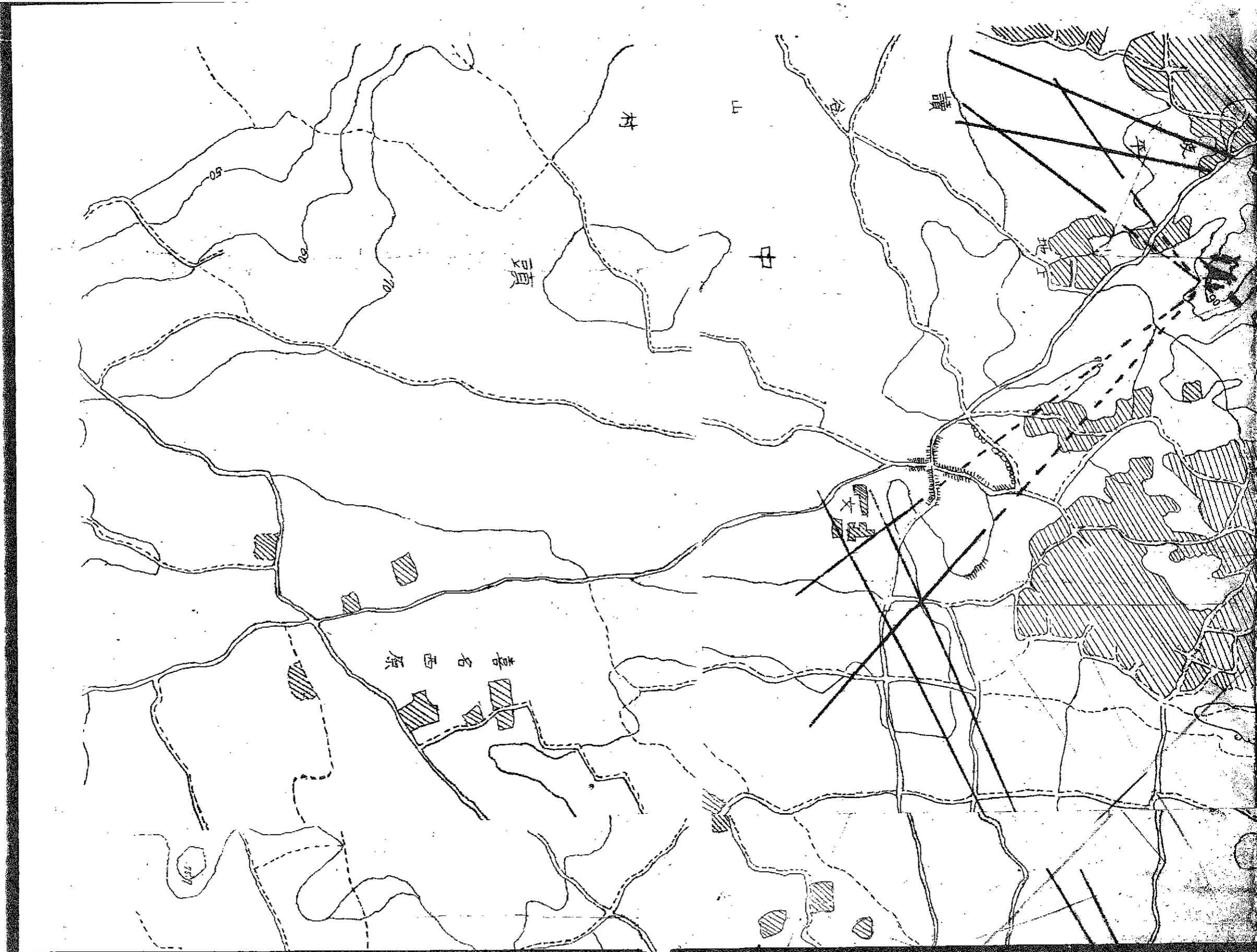
主陣地構築要圖



主陣地構築要圖







讀

谷

山

村

中

蹟

地名

大

喜名西原

557

西地巴博備隊主陣地第一夜計算圖樣其基準表

物 研 陣	隊 號 南 機 二 第				隊 中 六 第				隊 中 五 第				隊 中 四 第												
	對 隊 壕	鹿 此 右	交 通 壕	小 銃 掩 體	MG 掩 體	指 揮 用 掩 體	洞 窟 類 食 員	交 通 壕	♀ 掩 體	♀ 掩 體	小 銃 掩 體	重 機 槍 掩 體	洞 窟 類 食 員	♀ 掩 體	♀ 掩 體	小 銃 掩 體	重 機 槍 掩 體	洞 窟 類 食 員	交 通 壕	指 揮 用 掩 體	洞 窟 類 食 員	交 通 壕	指 揮 用 掩 體	洞 窟 類 食 員	
四〇〇	八〇〇 10 13	四〇〇 13 0.62	三〇〇 13 0.6	二〇〇 13 0.6	九〇〇 13 0.6	九〇〇 13 0.62	三〇〇 13 0.62	二〇〇 13 0.62	一〇七 15 時	四〇〇 15 時	一〇七 13 時	九〇〇 13 時	一〇七 13 時	二〇〇 15 時	三〇〇 15 時	二〇〇 15 時	一〇七 15 時	九〇〇 13 時	一〇七 15 時	四〇〇 15 時	二〇〇 15 時	三〇〇 15 時	一〇七 15 時	九〇〇 13 時	一〇七 15 時
三〇〇	二〇〇 人	六〇〇 二〇〇 人	二〇〇 一八 五	二〇〇 一八 五	一〇七 一八 五	一〇七 一八 五	一〇七 一八 五	三〇〇 一八 五				二〇〇 一八 五	三〇〇 一八 五	二〇〇 一八 五	二〇〇 一八 五	二〇〇 一八 五	二〇〇 一八 五	二〇〇 一八 五	二〇〇 一八 五	二〇〇 一八 五	二〇〇 一八 五	二〇〇 一八 五	二〇〇 一八 五	二〇〇 一八 五	二〇〇 一八 五
工兵400 兵250	中隊 32% 士兵 20		中隊 70% 士兵 120%				中隊 62% 士兵 110%				中隊 75% 工兵 110 士兵 30				士兵小隊 計畫實施ニシテ										
			中隊 30%																						

備 考

一、洞窟小銃掩體、MG掩體、指揮用掩體、交通壕、洞窟類食員等之計畫、係依據地形、地質、及敵我之配置、而計算之。
 二、後方之各隊、約為百分之三十、其餘為百分之七十、本計畫圖、係以百分之七十之隊、為基準、其餘之隊、則依其比例、而計算之。
 三、交通壕、全部、均為百分之三十、其餘為百分之七十、本計畫圖、係以百分之七十之隊、為基準、其餘之隊、則依其比例、而計算之。

以下陣地增強

附表第二

		西地区守備隊築城資材配當表					
備考	區分	種類		器具	ダイナマイト	衛工物資材	
		座	名				
1. 器具ハ配當部落ヨリ各隊毎ニ借用スベシ 2. 衛工物資材ハ各隊現地物料ヲ利用スベシ 聯隊本部ヨリ配當アレハ其額度配當ス	口	喜	名	〇三	〇三	〇三	
	第四中隊	伊	良	皆	〇三	〇三	〇三
	第五中隊	喜	名		〇一	〇一	同ジ
	第六中隊	座	喜	味	〇二	〇二	
	第七機関銃中隊	座	喜	味	〇一	〇一	

七月十日

行 動

一、大隊八〇〇〇嘉年繡農林學校去出發行軍ニヨリ
吉吉國民學校ニ至ル一〇〇〇着爾若操境ノ整理
ヲナス 爾後文外

命 令 二 井作命第一〇號

井作命

精進

一、大隊(計)八本一日ヨリ主力八喜各國民學校一部

一、八波平公會堂裏ヲテ着爾若操境ノ整理

二、各隊ノ現地ニ於テ着爾若操境ニ至ルニ至リテ

三、第四中隊ノ素小隊ノ對空射擊部隊ニ在スルニ

四、警急召集會場國民學校裏ニ在ス

五、空襲警急召集會場中隊ノ着爾若操境東部地區ニ第五中

隊ノ着爾若操境西方地區極力疎開スルニ在リ

六、機關銃中隊ノ機銃ヲ利用シ對空射擊ヲ

ナス

